

引用文献

- 愛知県植物誌調査会. 1996. 植物からの SOS 一愛知県の絶滅危惧植物一, 愛知県植物誌調査会.
- 藤井伸二. 1995. 徳島県吉野川におけるイセウキヤガラ の記録と生態ノート. 水草研究会会報 57: 12-14.
- 角野康郎. 1994. 日本水草図鑑, 文一総合出版.
- 神奈川植物誌調査会編. 1988. 神奈川植物誌, 神奈川県立博物館.
- 小崎昭則. 1990. 神奈川県産の種子植物補遺 (1). FLORA KANAGAWA 29: 296-297.
- 小崎昭則. 1991. 神奈川県産の植物補遺 (1). FLORA KANAGAWA 30: 305-319.

- 小山鐵夫. 1980. 日本のウキヤガラ属. 植物分類地理 31: 139-148.
- 中西弘樹. 1973. イセウキヤガラ (*Scirpus iseensis*) の新産地. ヒコピア 6: 250.
- Shimizu, T. 1967. An observation on *Scirpus iseensis*, sp. nov. J. Jap. Bot. 42 (6): 175-181.
- 筒井貞雄. 1983. 福岡県のカヤツリグサ科植物予報 (1) 福岡県産植物目録 1. 福岡の植物 8: 69-119.
- 薄葉 満. 1986. イセウキヤガラを福島県に記録する. 東北植物研究 3: 18.
- 薄葉 満. 1988. イセウキヤガラを青森県に記録する. 東北植物研究 5: 4.

○奥田重俊・佐々木 寧 (編)『河川環境と水辺植物一植生の保全と管理一』(ソフトサイエンス社, 1996年7月, 261p, 9500円)

水辺環境の保全・復元は, 現場にたずさわる技術者にとっても大きな課題となっている. しかし, 具体的に何をどのようにして保全すればよいのか, 実は明らかでない. そこで生態学者への期待が寄せられるのだろう. あ るいは, 黙っては見ておれないと言ったほうが正確かも知れない. 最近, 生態学者が中心となって水辺環境の保全を考える動きが活発になっている.

そのような流れのひとつともいえる本書は, 「建設・土木の技術者と生物・生態の研究者らが知恵を出し合い協力すべき時が, まったなしに到来している」(まえがきより) 状況の中で編集された時宜を得た出版物である.

第1章「河川生態系と保全」で河川環境の特質や保全の目標, そして保全の基礎となる植生調査法が簡潔にまとめられる. 第2章「水辺植物の特性」は本書の中心となる部分で, 大半が本会会員の執筆になる. 河川の植物の生態的特性と, 抽水・浮葉・沈水の各生育形の水草について分布を制限する環境要因, 繁殖様式などの生態的特性から利用や保全のための具体的方法にまで言及されている. 水草について一般的な勉強ができるだけの内容が盛り込まれている. 第3章以下は「堤防の植生と管理」, 「河川植生の管理」, 「河川植生の評価と景観」, 「多自然型川づくり」と, より実践的な内容になり, 保全に取り組む視座を確認する内容になっている.

類書が他に無い訳ではないが, 本書は全て生態学者

(主に植生学者) によって書かれているという点で今までになかったものである. この本に盛り込まれた内容以外にも生態学者の主張したいことはたくさんあると思うが, 水辺の植物とはこういうものなんだ, ということを伝えることにはひとまず成功していると評価したい. このような試みによって現場の技術者との溝を埋めることが可能になるのであろう. 水辺環境の保全に興味をもつ者が手元に置くべき本が1冊加わったといえる.

(角野 康郎)

○『和歌山県の水草』(和歌山県立自然博物館, 1996年7月, 20p, 頒価500円)

今年7月に開かれた特別展「和歌山県の水草」の解説書である. 一般向けの出版物でカラー写真をふんだんに盛り込んだ美しい仕上がりとなっている. 水草の概説や生育環境の説明に始まり, 和歌山県に産する水草が写真と解説で紹介される. 種類の見分け方や, 県内の分布図もある. 絶滅危惧種21種も紹介してある. 最後に和歌山県に産する水草のリストがある.

もともとは展示のパフレットとして作られたものだが, 和歌山県の水草について知る資料としてもたいへんよくできている.

入手希望者は 〒642 和歌山県海南市船尾370-1 和歌山県立自然博物館 山元様に御照会ください (FAX 0734-83-2721).

(角野 康郎)